

最後の代官

⑪

忠左衛門日記

伝とされる「百ヶ條」

で、この2冊には忠左衛門が江戸で使っていたとされる名前「岩本湊」の署名もある。

しかし、「百ヶ條」は

岩本家文書には、武士と呼ばれるもので、代官1500年代に種子島にたち礼儀作法などの一になる前に江戸屋敷に勤鉄砲が伝来した時のこと一般教養を身に付けるため務めていた忠左衛門に對から始まり、旧式の火繩

浜御殿護衛時に「黒船」見た？

鉄砲の秘伝書も幕末には時代遅れに

に読んだ書物が数多く残して、荻野流の7代目継銃を使った砲術や戦法にされている。その中の一承者を名乗る桜井貞三が関する記述ばかり。「鉄砲名所書」も火繩銃の部品の名称などが紹介され

た秘伝の文書もある。51の「鉄砲名所書」、もう1冊は翌年には荻野流砲術は時代遅れだったようだ。

幕府は嘉永年間の終わりに長崎の兵学者・

高島秋帆が編み出した

「高島流砲術」を採用。

東インド艦隊司令長官の

ペリーが嘉永6年に黒船

「講武所砲術方（鉄砲

隊）」に任命された旗本

の谷衛久も高島からこの

砲術を教わった。

ちなみに、砲術を学ん

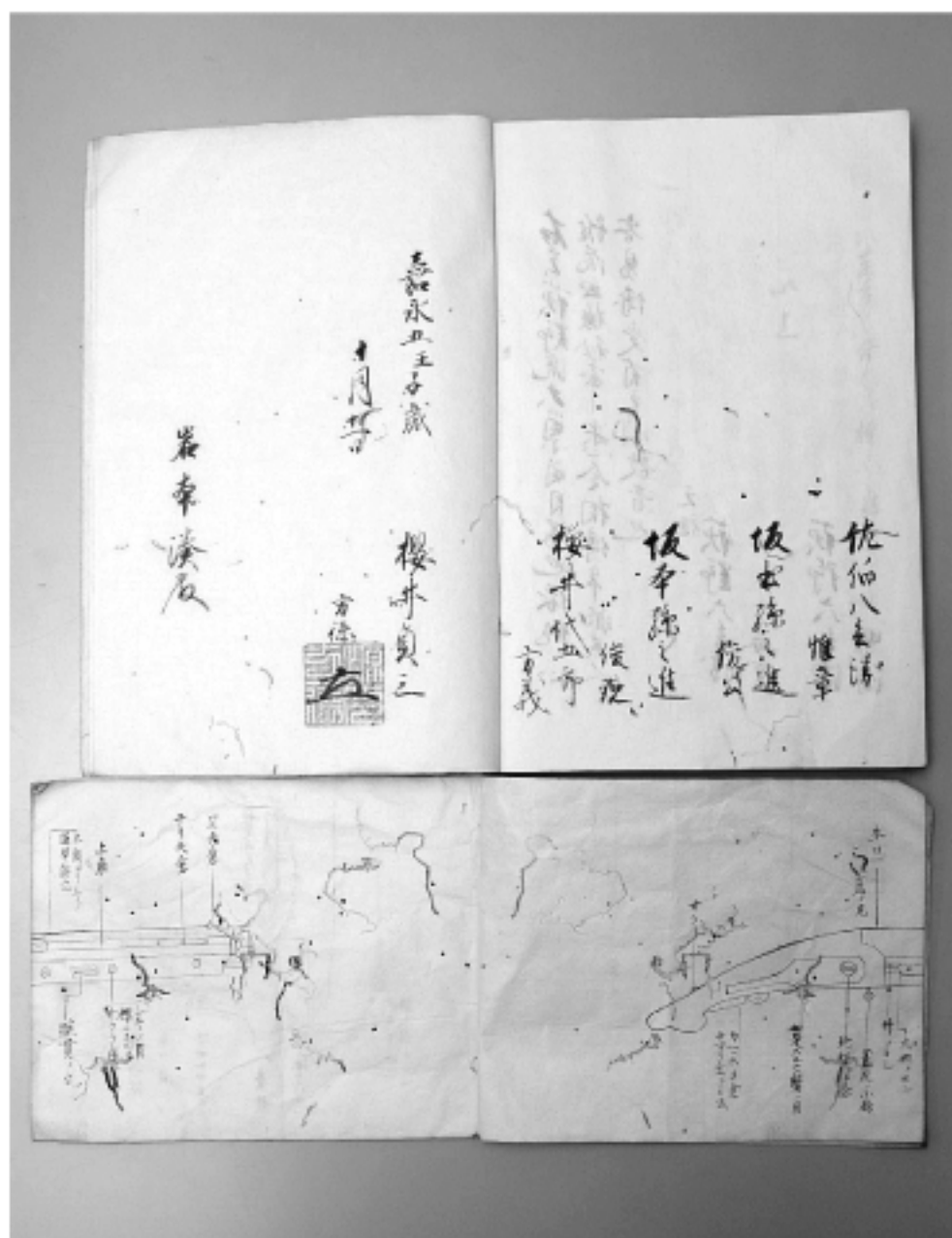
だ忠左衛門は、アメリカ

は、太平の夢を長い間

に乗って浦賀に来航した

で見たのであろう。

衛に当たった。おそら



桜井貞三が忠左衛門に贈った荻野流砲術の「百ヶ條」(上)と「鉄砲名所書」